

【若地方の王の舞について】

現在、若狭地域で王の舞が奉納されている神社は16社ある。平安時代の京都で祭礼芸能として演じられていたものが、荘園のつながりで若狭地方に伝わり、現在まで伝えられてきたと考えられている。その神社によって、舞振り、舞う時間、舞手は様々であるが、鼻高面をつけて、手鉾を持ち、地域を祓い清める意味合いを持つと思われる。また、王の舞の後に獅子舞が奉納されることが多い。



阿奈志神社に残されている王の舞面

【阿奈志神社の王の舞】

大正11年（1922年）発行の若狭遠敷郡誌に以下のように記載されている。

『郡内の主なる神社には申樂ありたり、王の舞と称するものは尤も重要視され赤顔長鼻金眼の面をかぶるものと獅子頭をいただくものとを以て組成され、伝説によれば尤も古くから行はれたるものの如し、現存せるものは中世以前に属するものを見ず、國富村の奈胡に存するものは最も古きものの一つなり』

現在は、王の舞・獅子舞は奉納されていない。王の舞面と獅子頭は写真の状態で残されている。獅子頭は腐食が激しいが、王の舞面は良好な状態で残されている。



阿奈志神社に残されている獅子頭



【伝統文化と青少年のつながり】

阿奈志神社では、少子高齢化、氏子数の減少等の取り巻く環境の中、青少年が地域の伝統文化である神社の行事に参加することで、伝統を経験し地域との結びつきを深め、その体験が将来の大切な思い出として、また、心の拠り所となるようお願い、平成21年から豊栄舞を奉納してきました。その後、浦安の舞や雅楽にも取り組んできました。



舞振りを整えることができた。

王の舞面以外の、手鉾、獅子頭、覆は、これも椎村神社のものを参考に復元することができた。椎村神社の区長、禰宜さんには、何度も話を伺ったり、見本として鉾や覆のサイズを計測させていただいたり、大変お世話になった。

【まとめ】

王の舞は、祭りの露払い、また、その地を祓い清める役割を担ってきたと考えられてきた。今回、日の目を見るようになったのも何かの縁。世の中が鎮まるように願い、5月1日無事に奉納できるように準備を進めていきたい。

【きっかけ】

王の舞面、と獅子頭が当社で見つけたことがきっかけとなった。しかし、王の舞は途絶えており舞振りは当時のものが伝わっておらず、装束類もわからない状態であった。そこで、現在、若狭地方に伝わっている王の舞を参考にすることにした。中でも、当社から距離も比較的近い、小浜市若狭に鎮座する椎村神社にお願いしたところ、同社に伝わる王の舞を参考にさせていただくことができ、

